

シリア
映画

2017年
山形国際ドキュメンタリー映画祭

最優秀賞

(山形市長賞)

スウェーデン・マルメ・アラブ・ドキュメンタリー祭
最高監督賞

ヨルダン・カラーマ人権映画祭
ベスト・ドキュメンタリー賞

カーキ色の 記憶

監督 / シナリオ / 編集

アルフォーズ・タンジュール

製作総指揮・シナリオ ルアイ・ハッフアール / 制作指揮 イヤード・シハーブ

撮影監督 アフマド・ダクルーブ / 音楽 キナン・アズメ / ドラマトゥルク アリー・クルディー

美術補助 アラシュ・T・ライハーニー、リング・ザハラ / 製作 アルジャジーラ・ドキュメンタリー (カタール)

撮影国 シリア、レバノン、ヨルダン、ギリシア、フランス、フィンランド / 2016 | 108分 | アラビア語 | BD

日本語字幕 額賀深雪、岡崎弘樹 / 配給 アップリンク / 配給協力 『カーキ色の記憶』日本上映委員会



الوثائقية
DOCUMENTARY

痛みは口に出すことで、分かち合える。

シリアの悲劇は、2011年に始まったわけではない。

1980年代にアサド体制に反対した多くの若者が当局に追われ、国を去らざるを得なかった。

監督の個人的な物語が、他の4人の語り手の物語と重なり合う。

くすんだ軍服に象徴される沈黙や恐怖、戦慄の記憶。赤い風船に託された自由と抵抗。

白色の雪によっても覆えない心の傷。何故シリア社会が爆発し、革命が始まったのか、その背景に迫る。

過去を語りながら、未来を見せるシリア人の物語。

“シリア内戦に関する類い希なる叙情的記録”
— P.O.V. magazine

“誰が今戦争を繰り返しているのかではなく、誰が国の分断を促し、悲劇への道筋を用意したのかについて語る作品”
— アッシャルク・アルアウサト紙

“ドキュメントとフィクションのシーンを意図的に混然一体にすることで、戦争や独裁を告発する真摯なドキュメントでありながら、同時に映画芸術としての地平も切り開いた、独創的な映像表現”
— 榛葉健(ドキュメンタリー監督)

“シリア難民の声を広げる作品”
— NHK World

アルフォース・タンジュール監督

シリア人ドキュメンタリー映画監督。1975年生まれ。モルドバの芸術アカデミーで映画演出を学んだ後、シリア映画総局の監督となり、『小さな太陽』(2008)で2008年カルタゴ映画祭銅賞と2009年ベルギー・モンス映画祭審査員特別賞を受賞。その後アルジャジーラ・ドキュメンタリーチャンネルにて記録映画を多数制作。『木製のライフル』(2011/2012)は2013年アルジャジーラ国際ドキュメンタリー映画祭で公的自由・人権賞、2014年中国国際金熊猫ドキュメンタリー祭で最優秀プロダクション金熊猫賞を受賞。最新作『カーキ色の記憶』も各国映画祭で高い評価を得る。

主な登場人物

イブラヒム・サミュエル

シリアの短編小説家。大学入学後、アサド政権を批判する青年運動組織に加わったために逮捕され、77~80年に収監。作品は欧米語に多数翻訳。現在ヨルダンのアンマン在住。

ハーリド・ハーニー

シリア中部のハマ出身の画家。ハマ大虐殺事件(1982年)の際に父親の目がくりぬかれた情景が、未だに脳裏に焼き付いている。現在、フランスの田舎に在住。

アマーセル・ヤーギー

タンジュール監督の母方の叔母。1980年代に当局に追われ偽名で国内に10年潜伏した後、フィンランドに亡命。「苦しみを抱え込まず表に出せば、必ず誰かの心に響く」と訴える。

シャーディー・アブー・ファハル

若手のシリア人映画監督、人権活動家。シリア革命勃発以来、平和的なデモに積極的に参加し、当局に3回拘束。フランスへ亡命後も祖国に再潜入し、撮影を続けた。

2018.4.14 (土)より

UPLINK 渋谷

TEL: 03-6825-5503

ほか、全国順次公開



2018年夏以降

大阪・中崎町の天劇キネマトロンで常時公開

4名様以上で上映日時を予約できる逆指名システム。詳しくは下記まで。
TEL: 06-6940-7224 Email: tengeki.cinema@gmail.com

『カーキ色の記憶』は自主上映会を歓迎いたします。
上映スケジュールほか詳細はホームページをご覧ください。

www.memory-khaki.com